

手づくりハザードマップ作成手引き(参加者編) 2日目



■手づくりハザードマップ作成の進め方(2日目)

2日目スタート

ワークショップ
(グループで・120分)カード作成
(個人で・65分)

河川名	川
水位観測所名	
決壊による 自宅の浸水深	m
はんらん 氾濫危険水位	m
避難判断水位	m
はんらん 氾濫注意水位	m
ふだんの水位	m

意見交換
(全員で・30分)

2日目終了

A手づくりハザードマップの記載内容の確認(20分)

1日目に手書きで作成した図面が、印刷物になっています。
1日目に書き込んだ内容が正しく記載されているか確認しましょう。
また他のグループを参考に、図面に書き込む内容を推敲します。

B地図にコメントの記入(20分)(ヒントは後ろに)

1日目に地図に書き込んだ思いや、過去の被害経験など、手づくりハザードマップを見る人に伝えたいコメントを記入します。

C作業結果の発表会(20分)

推敲された図面や、記入したコメントについて、グループごとに発表会を開催し、地域で情報共有します。

D手づくりハザードマップの活用方法の話し合い(20分)(ヒントは後ろに)

各戸に配布したり、地域の寄り合い所に貼り出したりと、手づくりハザードマップを地域で活用する方法について話し合います。

E勉強会「過去の被害事例」

平成27年9月の関東・東北豪雨の鬼怒川決壊、平成21年8月の台風9号に伴う兵庫県佐用町の被害などから、事前に避難のタイミングを考慮しておくことの重要性を学びます。

F勉強会「災害避難カードの作成に向けて」

自宅の被害危険性を知り、避難の必要性を理解するとともに、いつ避難を開始すれば良いか、雨量・雨域と河川水位情報の関係、水位観測所の位置や確認方法、水位情報と避難情報の関連、みずプロメールなどについて学習することを通じて、一人ひとりが考えます。

Gカード記入(ヒントは後ろに)

勉強会で学んだことを基に、一人ひとりで災害避難カードに記入をします。

H意見交換

これまでの2日間のワークショップをふまえ、大雨のときにどんな行動をすればよいか、避難のタイミングはどうしたらよいかなど、自分や地域が取るべき行動を改めて考えます。

「A手づくりハザードマップの記載内容の確認」のポイント

①手づくりハザードマップの目的を再確認しましょう

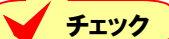
「洪水ハザードマップ」を思い出し、地域で想定される最大被害をイメージしてください。
しかしその状態では遅いです！手づくりハザードマップは、その状態になる前の「内水はん濫が始まり更に強い雨が降っている状態」を思い描きながら、お住まいの地域で早期の判断と行動を行う際のヒントとなる地図を作ることが目的です。

②1日目に手書きした地図が、正しく表現されていますか？

印刷物に1日目に手書きした内容が正しく表現されているか確認します。その際、誤って表現されていることの訂正や、その内容を変えたいところの変更、また書き加えたいことを手書きで記入します。

③避難所や一時避難所が記載されていますか？

早い段階で避難経路が遮断されることが予想される地区では、「一時避難所」の取り決めが安全確保に重要です。
一時避難所は、洪水ハザードマップで表示されている浸水深よりも高い建物があり、ある程度の広さと公共性を持つ建物や高台にしましょう。民間施設の場合は、町内会で事前に所有者などと話し合いをしておくといいでしょう。



④その他の確認事項

- 水の集まりやすい「くぼ地」
水が集まりやすく天井まで入る「くぼ地」では、堤防決壊前であっても、ゲリラ豪雨など内水で急激に水が集まった際に大変危険です。
- 避難の際の危険箇所
側溝や突起物など、避難の際に危険となる箇所の位置を確認しましょう。
※ただし、足元が見えない段階での外出は大変危険です。足元が危険になる前の早めの行動が重要です。
- 地図に掲載する写真
まち歩きの中で撮影した写真の中から、地図に掲載する写真を選びましょう。
- その他
ポンプやひ門や緊急時駐車場など、地域独自の注意点があります。それが地図に掲載されているか確認しましょう。

■完成した手づくりハザードマップの例(新城市豊島地区)



お疲れさまでした。手づくりハザードマップの完成です！

話し合った活用方法に合わせて地図を印刷し、いざといったときの行動に役立てましょう！

手づくりハザードマップは、行政が作成する地図とは違い、水害や地域の課題を学ぶ過程が重要です。
この例にとらわれることなく、参加者の意見や住民に伝えたいことをまとめましょう。

「B地図にコメントの記入」にあたってのヒント

①「1日目に図面に手書きで記載した思い」を記入しましょう。

なぜその場所を青く着色したのか。また、なぜその場所を一時避難所とし、その通りを避難経路としたのでしょうか。1日目に手書きで記載した理由の中で、地図を読む人に伝えたいことを記入しましょう。



②「過去の豪雨体験から得た知恵や対処法」をまとめましょう

平成12年東海豪雨や平成20年8月末豪雨といった大きな水害、近年発生した豪雨・台風などの経験を地域の皆さんで話し合い、地図を読む人に伝えることは、非常に重要です。そのときの危険や感じたこと、予兆、取っておけばよかった行動などについて話し合い、まとめましょう。

過去の豪雨体験から得た知恵や対処法の例	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ停止とともに浸水が始まった。ポンプ稼働条件やその確認方法を記載する。 ・地域で最も高いところは川の堤防の上。もしものときの一時避難所や避難路として記載する。
住民に伝えたい思いの例	<ul style="list-style-type: none"> ・いざというときにしっかり排水できるよう、日ごろから側溝や水路を清掃しよう。 ・地域のラジオの周波数を記載する。・インターネットで〇〇橋の水位を確認しよう。

「D手づくりハザードマップの活用方法の話し合い」のヒント

手づくりハザードマップを作る過程で水害を学ぶことも大切ですが、地域で活用し、そうした水害の危険を語り伝えることも大切です。地域の皆さまで共有し、地域に根づくマップにしましょう。

- ・全戸に配布して、市町村の洪水ハザードマップと合わせて各家庭で掲示する。
- ・小学校、公民館や地区内の病院など、地域の皆さんが日ごろから集まる場所に掲載する。
- ・手づくりハザードマップをもとに、大雨行動訓練※を実施する。

※“みずから守るプログラム”には、手づくりハザードマップを活用した“大雨行動訓練”のプログラムがあります。是非、定期的に訓練を実施して、日ごろから水害に備えてください。

「Gカード記入」のヒント

手づくりハザードマップだけでは、洪水による「地域の最大被害」が分かりません

手づくりハザードマップは「予兆」とその後の「過程(内水)」をまとめるのが中心です。しかしながら、これでは最大被害のことが学びにくく、避難の重要性に気づきにくいという問題がありました。

早めの避難の重要性を理解し、確実な避難のきっかけに！

家屋単位で、最大被害と公的機関から届く情報をまとめます

標高や流速などから家屋ごとに洪水被害は異なるため、地域の中でも人によって避難の必要性は異なります。それぞれの世帯ごとに最大被害をまとめて避難の必要性を考えるとともに、水位情報や避難情報といった公的機関から提供される情報を学び、「まだ大丈夫」から「もう避難しないとまずい」が切り替わる基準を考えます。

作成日 年 月 日

住所	作成者
階数・構造	自宅の階数 () 陸建 木造・コンクリート造・()
避難所の名称と住所	名称 () 住所 ()
自宅周辺地形から見た浸水危険度	高い・やや高い・やや低い・低い・なし
避難経路から見た洪水の危険度	高い・やや高い・やや低い・低い・なし
(避難経路上で水たまりになりやすい箇所)	()
川の決壊による洪水の危険度	高い・やや高い・やや低い・低い・なし
洪水時家屋倒壊危険地域※	内・外
大雨のときに確認する気象情報	気象情報は、 で確認する

※洪水時に家屋倒壊等のおそれがある区域(想定最大規模(L2)の浸水想定区域図等で確認)

手づくりハザードマップ作成時の意見を参考に記入します。

■近くの川の決壊が懸念されるときに見るべき観測所と避難行動の目安となる水位について

河川名	川	川
水位観測所名		
決壊による自宅の浸水深	m	m
はんらん氾濫危険水位	m	m
避難判断水位	m	m
はんらん氾濫注意水位	m	m
普段の水位	m	m

市町村の洪水ハザードマップ等を基に、この地域でみるべき水位観測所の情報をまとめます。それにより、川の危険度が分かるようになります。地デジ「dボタン」で見ることができますので、参加者に知ってもらうきっかけになります

(水位の取得方法)

テレビdボタン	NHK、メーテレの2局から利用可能です
WEB	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索
メールサービス	愛知県や市町村独自のメールサービスを利用ください
ライブカメラ	「川の防災情報」にて「 付近」のカメラ画像をみることができます 「川の防災情報」にて「 付近」のカメラ画像をみることができます

■大雨の時に見るべき雨量観測所について

- 家の近くの雨量観測所 → ()
- ※家の周辺だけでなく上流部の雨量にも注意してください。
- 気象庁の「大雨注意報」は時間雨量20~30mmが基準となっており、浸水や土砂災害の恐れがあります。

■大雨の時に見るべき気象情報について(リアルタイムの雨雲レーダー)

- 川の上流部では水位の上昇が非常に速いことがあるので、雨雲の状況を、テレビのデジタル放送(dボタン)、Webページ(気象庁、国土交通省、愛知県など)、スマートフォンのアプリなどで確認しましょう。

■避難行動の留意点

- ☑周りで浸水が始まっている場合や逃げ遅れた場合は、無理に避難せず2階等の安全な場所へ移動してください。
- ☑堤防近くにお住まいの方は、堤防が壊れた場合に家屋が倒壊する可能性もありますので早めの避難が必要です。(メモ)

「避難行動」について、一人ひとり想定される被害は異なります。ハザードマップの浸水深を参考に、被害に遭わない方法を考えてみましょう。手づくりハザードマップの記載事項から、自分に関係する内容を転記すると良いでしょう。